

「リスクコミュニケーション」チームの進め方について

■ 2020年度内

- 東京iCDCにおけるリスコミの原則（ルール）の策定と共有
- 季節性インフルエンザとの同時流行に備えたリスコミのあり方の検討
- 報道機関関係者との意見交換、今後の情報発信のあり方についての共考
- 都民の各層に対する調査の実施

■ 中・長期的に

- リスコミについての研修
- 恒常的な対話の場づくり
- 東京iCDCの有事・平常時のリスコミの構造をつくる

いずれの活動も、リスコミを機能させるための7つのポイントに即して進める

リスクを成功させる7つのポイント（リスクを機能させるための7つのポイント）

* 奈良・武藤・田中のディスカッションより作成

● 1. 「そもそもリスクとは何か」を共有する

- ✓ リスクとは：リスクについての、個人、機関、集団間での情報や意見のやりとり（相互作用プロセス）のこと。
- ✓ よくある誤解：「リスクは相手を説得するための情報戦術」（ではない）。「リスク担当者はコピーライター」（ではない）。

● 2. 組織のなかにリスクを位置づける

- ✓ リスクは、トップに直結しつつ、ほかの各部門とやりとりできるハブとしての位置に。
- ✓ 内外の関係者間での「状況認識の共有」が重要。

● 3. リスクの機能を正しく理解する

- ✓ 「伝える」（広報）だけでは不十分。「聴く」（広聴）が必須。市民対話。
- ✓ 相手は、それぞれの立場でそれぞれの価値観と合理性にもとづいて考え行為する当事者。

● 4. リスクの原則を共有し、ぶれない

- ✓ 科学的・客観的であること、スピードがあること、公正・透明性があること、市民の声を聞き市民参画を尊重すること、信頼を醸成すること、といった原則に基づいたリスクを。

● 5. 全体と部分とを意識したコミュニケーションデザインを不断に描き実践する

- ✓ 「いつ」、「だれと（だれに）」、「何について」、「何のために」リスクを行うのかを常に意識することが重要。

● 6. リスクの成果を意識する

- ✓ リスクの評価を行うまでがリスク。また、アウトプット指標（人材育成型アウトプット、プロジェクト型アウトプット等）の設定も。

● 7. リスクの実効性と持続可能性を担保する

- ✓ 実効性のある枠組みと中身を作ること、さらには、クライシスが収束したあとも持続可能に運用できる体制を作ることが必要。

参考資料

- WHO: Risk communication and community engagement readiness and response to coronavirus disease (COVID-19): interim guidance, 19 March 2020 [https://apps.who.int/iris/handle/10665/331513]
- ASPR: Emergency Management and the Incident Command System [https://www.phe.gov/Preparedness/planning/mscc/handbook/chapter1/Page/s/emergencymanagement.aspx#1.3.1]
- CDC: Organizational chart [https://www.cdc.gov/about/pdf/organization/cdc-org-chart.pdf]
- 文部科学省 安全・安心科学技術及び社会連携委員会：リスクコミュニケーションの推進方策 [https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/064/houkoku/_icsFiles/afieldfile/2014/04/25/1347292_1.pdf]

「広聴」の手始めに、都民の意識を知るための予備調査

- **目的**：都民の新型コロナウイルス対策に関する関心や意識、今後必要な情報などを明らかにする。
- **対象**：東京都在住の20代から70代までの男女1,000名からの回収を目標とした、計5問のウェブ調査
 - 新型コロナの対策の取り組みについて、今年の夏と現在での比較
 - 新型コロナに関する心情
 - 東京都のモニタリング分析活動の知名度
 - 冬に向けてほしい情報
 - 新型コロナに関連して、あなたが直面している問題や不安
- **実施方法**：ネットリサーチ会社を活用して実施
- **調査期間**：10月中旬を予定

そのほか、宿泊療養施設での調査等を検討中